



【夏休みの図書室について】^{じどう}児童のみなさんと^{ほごしや}保護者の方へ

今年の夏休みは4日間開いています！

日にち：7月22日（月）、23日（火）、

8月23日（金）、26日（月）

時間：午前9時～11時まで（午後は開いていません）

～おねがい～

- ・図書室に来る時は、お家の人に伝えてから来ましょう。
- ・^{つうがくろ}通学路を通して、北門（^{きやうしよくしつ}給食室の横）から入りましょう。
（他の門は閉まっています）
- ・通学する時は、ぼうしをかぶってきてください。
- ・うわぐつを^{わす}忘れずに持ってきてください。
- ・^{あつ}暑い日が続くので、水とうを持って来ててください。図書室の中でお茶を飲んでもらって良いです。本がよごれないように気をつけて飲みましょう。
- ・図書室では、本の^{かしだし}貸出、^{よやく}返きゃく、^{よやく}予約、^{かんしやう}読書ができます。貸出できるのは4冊までです。
- ・図書室にいる時間は1時間以内にしましょう。
- ・夏休み前と、7月23日（火）までに借りた本は、8月27日（火）～8月30日（金）の間に返しましょう。
- ・8月23日（金）と、8月26日（月）に借りた本は、2週間後までに返しましょう。

八幡市立八幡小学校 図書室

本のおたより

（4年生～6年生用）



令和6年7月5日夏号



読書感想文にいかがでしょうか？



もうすぐ夏休みが始まりますね。楽しみなことも多いけれど…夏休みの宿題の読書感想文を書くことが苦手な人も多いのではないのでしょうか？今回の図書室だよりでは、読書感想文を書きやすい本を紹介したいと思います。ぜひ、自分の好きな本をみつけて借りてみてくださいね。そして、自分の感じたことや、考えたことを、文章で表現してみましょう。書いてみて初めて自分の気持ちに気づくかもしれませんよ。

物語『^{エーアイ}AIロボット、ひと月貸します！』

^{きうちな}木内南緒/作 ^{まるやま}丸山ゆき/絵 ^{いわさきしよてん}岩崎書店



人間とロボットの友情！？

小学4年生の男の子岡本栄太は、両親と未来科学ランドにやってきました。すると、10万人目のお客さまに選ばれ、自分とそっくりなロボットを作ることができる材料をプレゼントされたのです。ただし、貸出期間は1か月で、その間、だれにもロボットの話を話してはいけませんでした。

早速、分身ロボットを作った栄太は、ロボットにエイトという名前を付けました。栄太は、宿題や、テスト、家のお手伝いなど、自分のいやなことは全部エイトに任せました。その間、栄太は、おかしを食べたり、ゲームをしたり、自分の好きなことをして過ごしていました。

しかし、エイトが栄太をのっとろうとしている夢を見てあせった栄太は、真実を確かめるために、エイトの様子を見に行きます。そこで、知った真実に、栄太は心動かされるのです。

そして、1か月が経ち、とうとうエイトを返さないといけな日がやってきました…。

物語『じゅげむの夏』 最上一平/作 マメ・イケダ/絵 佼成出版社



最高の夏休みにしよう！

小学4年生の男の子、かっちゃん、山ちゃん、シューちゃん、あきらは、仲良し4人組。かっちゃんは、筋肉がだんだんとやせていく筋ジストロフィーという病気で、遠くまで歩くことはむずかしくなっていました。

そんなかっちゃんが、「4年生の夏休みを最高の夏休みにしようよ。」と、呼びかけました。この村には、天神橋から川へダイブすると大人の階段を上ると言われているならわしがあり、かっちゃんは、それにちょう戦したいと言うのです。友達3人は、かっちゃんの体を心配して反対したのですが、「今年がラストチャンスかもしれない。」と言われ、かっちゃんのちょう戦に協力することにしました。

生き生きと全力で夏休みを過ごす少年達のみずみずしい物語で、今年度の3・4年生読書感想文課題図書でもあります。

物語『金曜日のヤマアラシ』 蓼内明子/著 中田いくみ/装画 アリス館

自分の気持ちを正直に伝えよう

6年生のクラスに転校してきた男の子桐林敏は、クラスメイトから話しかけられても態度が冷たく、いつもイライラ、トゲトゲしているので、同じクラスの女の子長谷部詩は、心の中で彼のことをヤマアラシと呼んでいました。

ヤマアラシは、将来サッカー選手になることが夢です。そのきっかけとなったのは、日本代表のキャプテンを務める長谷部選手から声をかけられたことでした。なので、ヤマアラシは、あこがれの長谷部選手と同じ苗字の長谷部詩に親近感がわき、ヤマアラシの方から話し掛けてから、2人のきよりが縮まっていきます。しかし、クラスメイトからは2人の仲をあやしまれてしまいます…。

一方、詩は、2年前にした自分の行動を後悔しており、1人で抱え込んでいました。仲良くしていたはずの友達からも、距離を取られてしまいます。そこで、自分を変えたい詩は、クラスメイトの前で、全てのことを正直に話す決意をしたのです。



物語『サステナブル・ビーチ』 小手鞠るい/作 カシワイ/絵 さえら書房

自分に何ができるか考えよう



日本人の父と、アメリカ人の母を持つ小学6年生の男の子宮本七海。母と夏休みにハワイのオアフ島に旅行に行った時に、海の砂はまだカラフルな小さなつぶを見つけるのですが、このつぶがプラスチックのかけらでできていることを知ります。つまり、人間の捨てたペットボトルなどのプラスチック製品が海に流され、細かくなって、消えずに残っているのです。七海は、この事実ショックを受けます。

その後、七海は、ごみでオブジェクトを作るアーティストのオーガストや、ごみが原因で助けを求めている動物の絵を描く画家の少女ピカケと出会い、自分にもできることがあるはずだと、行動を起こします。「地球かん境を破かいしないで、けい続していく」サステナブル・ビーチを目指して…。

物語『図書館がくれた宝物』 ケイト・アルバス/作 櫛田理絵/訳 徳間書店

「家族とは何か？」を考えさせられます

物語の舞台は1940年の第二次世界大戦中のイギリス。12才の男の子ウィリアム、11才の男の子エドモンド、9才の女の子アンナの3人兄弟は、幼いころに両親を亡くし、母親代わりであった祖母も亡くしてしまいました。

そこで、3人兄弟は、空しゅうのおそれの少ない田舎の村に行く学童そ開に参加し、両親になってくれる人を見つけるという作戦を立てたのです。

しかし、そ開先の家庭での生活は、いやがらせをされたり、貧しい生活により我まんを強いられたりと、とても厳しいものでした。そんな時に、3人の心を救ってくれたのは、図書館と司書のミューラーさんでした…。

今年度の5・6年生読書感想文課題図書です。

